

かえで支隊防災通信

発行
小川自治会自主防災隊
かえで支隊
編集
情報・広報班

多摩直下型の震度6以上の地震が30年以内に70%の確率で起きると言われております。町田市における被害想定は多摩直下地震でM7.3の場合、震度6弱、死者数267人、負傷者数4,278人、重傷者数453人、建物全壊数3,931棟、同半壊数12,521棟、焼失棟数3,443棟と想定されております。今回は避難する時の要点を取り上げてみました。

避難について

◎ 避難する前にしておくことは「グラッ！」ときたら

- ①身を守る：室内の安全な場所（机やテーブルの下）に隠れる
- ②火の始末をする：火元の確認をする、③出口を確保する：ドアを開ける
- ④火災が発生したら素早く消火：消火器や毛布で、近隣に「火事だ！」と大声で知らせる
- ⑤ガスの元栓、電気のブレーカーを切る

◎ 日頃から準備しておくもの「最低必要なものを！」準備しておく

場合によっては着の身着のままという事があるかもしれませんが。

- ①身を守るもの：ヘルメット（防災頭巾）、靴、防寒着、雨合羽、手袋、マスク等
- ②必需品：現金、印鑑、通帳、保険証、家族等連絡先控、常備薬、飲料水、乾パン、懐中電灯、携帯電話、ラジオ、アイマスク、タオル、胃薬、風邪薬、飴、チョコレート等などリュックに詰め、避難する時はリュックを背負い両手は空けておくようにします。

◎ どんな時避難する

火災が拡大して危険、家が倒壊した、半壊して危険、余震があると安心して居住できない。

◎ 避難方法は「安否や避難先のメモを残す」「かえで支隊には直接伝える」

ヘルメット（防災頭巾）をかぶり、長袖、長ズボン、靴など装着、リュックを背負って出来るだけ両手は空けて軽やかな行動ができるように。

◎ 避難場所はどこ「一時避難場所はかえで公園」「避難施設は都立小川高校」

- ①かえで公園に集まる。：避難に手助けが必要な場合はかえで支隊（かえで公園に設営）へ応援を要請する。
- ②宿泊が必要な場合は：協力して一緒に小川高校へ避難する。

* 避難場所のメモ

- ①避難広場：大きな地震が発生した場合、一時的な避難や自主防災組織等が互の確認を行う為に集合する場所。→かえで支隊は「かえで公園」です。
- ②避難施設：地震による自宅倒壊等住居を失った被災者の仮宿泊施設となる場所（体育館、グラウンドなど）：かえで支隊は都立小川高校体育館
- ③避難施設「小川高校」関係：避難施設は体育館に3.3㎡当たり2名収容（約260名）学校職員又は指定職員（近隣居住の市役所職員）等が施設の安全確認を行う。その間避難者は校庭で待機する。

その他補足：*避難施設は震度6以上で開設する。震度6未満で被災者が出た場合は、町田市役所に連絡すれば然るべき避難場所を指定することとなっている。

*救護連絡所：小川小学校（地震発生3日後から医師常駐、診療。

地震発生直後からの診療は災害拠点連携病院「町田慶泉病院」で行う。

*避難施設：小川小学校と小川高校には小川自治会が運営委員として登録しています。

避難施設が開設されると常駐することになります。小学校・高校に授業中とか課外活動で在校中の児童・生徒は学校当局が優先的に対応します。

お知らせ：かえで公園の小川自主防災隊資材倉庫の鍵は支隊長：一森、吉田、依田、山本、甲斐が所持しています。御用の節はご連絡ください。 以上